

第1回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和3年12月21日（火）午後7時00分～9時00分

【出席者】 松下敦委員、中平光高委員、松下洋平委員、中平良子委員、伊賀守委員、田頭誠志委員、鈴木幸代委員、村井洋平委員、栗原あゆみ委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課課長、上川地域振興課副課長、畦地町民生活課副課長、都築地域振興課係長、井口地域振興課主査

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

(井口_地域振興課主査)

時間になったので始めたいと思う。本協議会の議長は会長をもって充てるということになっているが、決定するまでの間、私が進行をさせていただく。また、本来であれば町長からお一人ずつに委嘱状をお渡しすべきところだが時間の関係上、皆様の机の上に委嘱状を置かせていただいたのでご了承いただきたい。それでは次第に沿い、まず富田局長から挨拶をお願いします。

○挨拶：富田地域振興局長

(井口_地域振興課主査)

まずは会長を決めたいと思う。立候補する人はいないか。

(田頭誠志委員)

会長へ立候補する。

(井口_地域振興課主査)

田頭委員から手が上がったが、他に希望者はいないか？いないようであれば田頭委員に会長をお願いしてよろしいか。

※全員、異議なし

それでは前期に引き続き、田頭委員を十和地域まちづくり推進協議会の会長に決定する。早速だが、会長が決定したのでここから先の会議の進行は会長をお願いします。

(田頭誠志会長)

ご承認いただき感謝申し上げます。十和の地域づくりにより深く関わりたいと思い、立候補した。また1年間よろしく願いしたい。それでは、この会の副会長を決めたいと思うが立候補する人はいないか。

※立候補者なし

では、会長指名で栗原委員に副会長をお願いしたいが、よろしいか。

(栗原あゆみ委員)

移住して1年だが、ご指名なので副会長をお引き受けさせていただく。よろしく願いしたい。

※全員、異議なし

(田頭誠志会長)

それでは副会長は栗原あゆみ委員になっていただけることに決定した。よろしく。では、今回から初めて委員になった方もおいでるので、まずは事務局からこれまでの十和地域まちづくり推進協議会の会議内容と、それを踏まえた町の取組について報告をお願いします。

(井口_地域振興課主査)

※委員の手に配布した資料／これまでの会議内容を踏まえた町の取組について(報告)を基に説明。

(田頭誠志会長)

はい。いま聞いていただいたとおりだが、十和だけが活性化してもいけない。ここが発展することで、町全体が栄えていくのが基本の考え方だと捉えている。例えば何かの事業に十和の分配が少ないんじゃない？と思ったら声を上げて欲しいし、どんどん自分の意見を出して欲しい。また、分からないことは質問をお願いしたい。ただ気を付けていただきたいのは、会としてここが成立するには、個人の意見をずっと話されると進まなくなる。その点についてはご理解いただきたい。

眠っている財産の有効活用も大切な事だと思う。新しいなにかを作るというより、今あるものを使う、リボン(再生)させていくこと。ゼロからの積み上げ以外の取組も考えてみてはどうか。しかしそれ以上にもっと大切なのは取り組みへのスピード感。出し合い話で終わった、というのが最も無駄な時間。すぐに具体化に繋げていくことが大切。どんどん人口減が進む中、スピーディーさが要る。小さなことでも、具体的な動きへの積み上げが要ると感じている。

委員からなにか質問や、ご意見はないか。

(松下敦委員)

旧小鳩保育所の再利用について。今までも、駐車場の問題とか進入路が狭いとか課題があったけどあれは？危くない？それと、久保川口とか古城の保育園跡地の有効利用は？

(松下洋平委員)

ぜひ久保川口、使って欲しい。小さい動きでも良いから。施設の有効活用をお願いしたい。

(田頭誠志会長)

気になるのは耐震だが…

(細川_町民生活課課長)

耐震は両方ともないと思われる。

(畦地_町民生活課副課長)

古城保育所跡は、個人に戻したように思う。

(田頭誠志会長)

また調べておいてほしい。旧小鳩保育所の再利用は、松下委員がおっしゃられたように老朽化や地理的条件でクリアできない課題がある。ただ、これらを解決に導くような大規模な改修は町でも考えていないということで、できる範囲での再利用となる。さて、これ以外に他に意見のある方は？

(鈴木幸代委員)

質問だが、前期の委員が話し合った議題のなかに集う場づくりについて、というものがある。これはどういった意見が交わされたのか教えてほしい。

(井口_地域振興課主査)

きっかけは小鳩跡地利用のことだったと思うが、十和地域内に複数存在する遊休施設の有効利用の話の中で、いろんな世代や考えをもった人たちが交流できる場って大切だよ、という話が出た。ただ、行政がわざわざ集う場を設けなくても、気の合う人や趣味仲間などは勝手に集まっておしゃべりしている。週1回のコミュニティバスに乗って喫茶店まで出てきて、そこで会える友達と会話を楽しんだりしている。ゲートボールが趣味の仲間なら、ゲートボール場に自由に集まっている。集う場づくりを行政が構える必要はない、という委員からの意見もあった。

(田頭誠志会長)

保育所の跡地利用が、地域の人たちにとっての集う場、交流の場になるというのもひとつの考えだと思う。ほかにもどんどん意見を聞かせて欲しい。

(松下洋平委員)

町長への意見書を出したなかで、十和の地域性にあふれる情報の発信についてという部分があるのでこれに関して。皆さん「しあわせしまんとせいかつ」というホームページ（以下 HP）があるのはご存じだろうか。自分はスマート定住対策協議会の委員も務めさせてもらっているが、しあわせしまんとせいかつの HP があまり活用されていないんじゃないかという話が出た。また、記事の更新頻度も止まったままの部分があるし、知りたい情報へなかなかたどり着けない。この HP 自体が町の公式 HP から飛んでいって、やっと見つけることができる。もったいないことだと思う。折角なので、ここに十和の情報を入れて欲しいと思う。今期のまちづくり推進協議会のテーマにしてみてもどうか。

(田頭誠志会長)

移住促進を目的につくられたページのようなのだが、しあわせしまんとせいかつという、この HP を移住して1年の栗原委員は知っていたか？

(栗原あゆみ委員)

知っている。でも松下委員がおっしゃられたように情報を得るための入り口が限定的で、なかなか欲しいと思う情報に辿り着かない。

(富田_地域振興局長)

移住定住のポータルサイトということを補足する。

(松下洋平委員)

人材のマッチングも情報として掲載してはどうかと思う。医療関係とか農業関係とかいう求人はあるが、もうちょっと横展開して、例えばバスの運転手が不足しているから募集しますとか。あんまりこのサイト自体、知っている人が少ないと思う。

(田頭誠志会長)

情報への入り口も、掲載されている情報も限定的…

(松下洋平委員)

将来的に広がりのある取り組みだと思うので。ページには「すむ」とか「はたらく」とかカテゴリーごとに分けられているが、特に「はたらく」のページが更新されていない。見られていない。

(井口_地域振興課主査)

町長への意見書のなかで触れているが、十和の地域性にあふれる情報の発信は運営自体を住民が行う事から、核となる組織の動きを見守り、必要な際は意見交換などを行うようにしている。現状、それがどういう動きになっているかというと、実は地域おこし協力隊が地元住民を支援して HP のトップ画面まではイメージが出来上がっている。お食事処とかイベントとか、そんなカテゴリーも作っている。ただ、当該協力隊員が卒業したことからその HP 作成が今どうなっているか…

(田頭誠志会長)

更新をしていくのが大変。誰が担うのという議論にも（前期委員と）なった。発信したい情報と、得たい情報の両方があると思う。町内でもっと合理化して、一本化して情報を出せたら、太い情報のパイプができるように思う。

(栗原あゆみ委員)

自分はこちらへ移住する前に、お試し滞在住宅で一時期過ごした。そのお試し滞在住宅の情報に辿り着いても、結局は「担当へお問い合わせください」で止まってしまう。新規物件の住宅情報も、そこをタップするだけでは見れない。私も移住するとき、情報がなくて困った。もっと知りたかったのは、ここで住んでる人はどういう暮らしをして、普段どんな食事を食べていて…とか、そういう生活に密着した情報。それらが探せなくて苦労した。

(松下洋平委員)

例えば中間管理住宅とか、応募条件の中に地域が望んでいる条件が含まれているだろうか。高齢化で地域の神祭の維持が困難になっている現状がある。だから祭事への参加が必要だ、とか。地域が移住者へ期待する事柄が何なのか、それが分からない。

(田頭誠志会長)

情報の出し方に、リンクが貼れていないということ。

(富田_地域振興局長)

しあわせしまんとせいかつに取り上げられないような、本当に地域密着型（小さなエリア）のローカル情報を載せたいよね、っていうのが町長への意見書に盛り込んだHPだったと思う。

(松下洋平委員)

横展開の話、誰に言うたらいいのかわからない。役場に伝えたら、情報を発信している部署へこれらの声を繋いでくれるとか。そういうことが一般の住民には見えにくい。

(田頭誠志会長)

もともと住んでいる人の情報と、外からの人に見てもらえる情報。ここをきちんと整理すると、運用も集約できると思われる。他にご意見等はないか。

(中平光高委員)

質問だが、魚も人もにぎわう川づくりについて、という部分に「魚道」というキーワードがあるが、これはどういうものか？

(井口_地域振興課主査)

観光をテーマに考える中で、まずは四万十川が美しくないと観光が生きてこないことや環境保全を長く考えるには子ども達への地域の愛着を育成することが重要だということになった。じゃあ何をするかという話になったとき、やっぱり鮎とかその他の水生生物が川に居ることが豊かさの象徴ではないか、そういう生き物は冷たい清流を求めて四万十川の本流から支流を遡上するため、遡上の途中に堰があると障害になる。その障害物である堰を、生物がのぼれるように「魚道」を設置してはどうかという話になった。ただ、設置することを目的とするのではなく、まずは調査をしてみてもいいか、どういった魚類がどの程度の数、存在するのか。その結果によって、本当に魚道設置することは意味のある事なのかといったことをいま毎月、川に入って調査している。その場所が、戸川川。また、魚道も大規模な護岸工事を伴うものではなくホームセンター等で入手できる土嚢や間伐材などを用いて簡易なものにしようという委員らの意見があった。

(中平光高委員)

承知した。

(田頭誠志会長)

他にご意見等はないか。

(鈴木幸代委員)

日頃から気になっているのは生活排水。各家庭で排出される生活排水は、どれぐらいきれいに浄化されてから下に流れている？様々な洗剤が出回っているが、環境に負荷をかけない優しい洗剤は、私はおかみさん市ぐらいでしか売っているのを知らない。多くの住民に、その辺の意識ももってもらえたらと思っている。

(田頭誠志会長)

四万十町の暮らしに関するアンケートが先日企画課から来ていた。いま集約中と思われる。

(松下敦委員)

河原の石はだいたい砂利。昔は河原の石をひっくり返して、子どもたちが遊んでいた。川底の石が動き、石についている汚れや川底のへドロが流されていくので生き物にとっては良い産卵床ができ

ていた。川底の石を持ち上げて、空洞を作ってあげるとか汚れが取れるように工夫してあげると良い。

(村井洋平委員)

砂防ダムの調査もしてほしいというのが個人の想い。そして四万十高校には自然環境コースがあるので、環境にかかわるまちづくりのことなら高校生にも関わらせてあげてほしい。

(伊賀守委員)

自分は四万十高校の教育振興会役員をやっているのですが、発言させていただく。四万十高校への来年度入学希望者のうち、県外出身の生徒 10 数名を先日面接した。志望動機のうち、やはりこちらの環境に魅かれてという意見が多かった。折角そういう理由で入学するのなら、行政や教育委員会、漁協などが環境教育ができる場面へ引っ張り出してあげて欲しいと思う。昔は自然環境コースも学習のために、屋久島まで行っていた。今はコロナ等の理由で行けていないが、少子化でどんどん子どもが少なくなっている。色々な高校が特色を打ち出し、門を広げているのでその分地域が頑張っって引っ張ってほしい。

(田頭誠志会長)

屋久島とか、大月町（海洋学習）は高校にとっては魅力的な授業だった。今は少し、仁淀ブルーに押されているように思う。

(伊賀守委員)

四万十高校への入学希望者の一部は、中学 2 年生ぐらいから（早めから）問い合わせが来たりする。関東圏からも来るし、去年は海外からの問い合わせもあった。だから情報を発信すれば生徒は来る。高校が地域に残る、存続に関わっていると思う。良いものは残っていく。幼小中高で自然に向き合おうと面白いと思う。

(田頭誠志会長)

そういう交流があれば良いと思う。山村留学のコーディネーターとかあれば賑やかになる。

(伊賀守委員)

県外からの子はフレッシュな目で見てくれる。子どもにとってもそういうのは大切だし、地元の子からしても新鮮。

(田頭誠志会長)

こういう感じでどんどん意見をお願いしたい。それではここで一旦休憩を挟んで後ほど再開する。

— 休憩 —

(田頭誠志会長)

再開する。議事(4)本協議会が協議する議題について、をまずは事務局から説明をお願いします。

(井口_地域振興課主査)

※議題資料に沿って説明。

(田頭誠志会長)

様々な取り組みには予算を伴うのでここも考えていかないといけない。十和地域振興局としっかりタッグを組んで我々もやっていきたい。事務局から説明があったように、この協議会の議題決めは別にひとつに絞らなくても構わない。委員任期は 2 年あるので、幅広いテーマにしても OK。逆にひとつのテーマを深掘りして、中身が詰まったものになりたいということであれば深い議論も歓迎したいということだった。各委員に、今の資料に目を通す時間を 5 分程度取るので、ちょっと考えてみて欲しい。

— 5 分間 資料黙読 —

(田頭誠志会長)

5分経過したので進めたいと思う。議題が決定するのは次回になると思う。現段階で、こんなの取り上げてみたら？という意見などがあったら聞かせて欲しい。

(栗原あゆみ委員)

9ページ 四万十町の西の玄関口機能強化のところに「四万十町総合交流拠点施設の改修」とあるが、これはどこのことか？

(富田_地域振興局長)

十和の道の駅のこと。これが正式名称。

(松下敦委員)

9ページの一次産業の部分。自分は農業者なので新規就農者（親元就農含む）の推進及び確保の部分に関心がある。皆さんご存知のとおり十和は柚子、生姜、栗、センブリ…これらの収穫が秋に固まっている。人を雇うために農家は大変苦勞している。この人材確保ができない農家は続けていかれない。

(田頭誠志会長)

大変難しい問題だと認識している。窪川地域の生姜もそうだが、どこも人材確保に苦勞している。旧家地川小学校を集落活動センターにして簡易宿泊施設が2階にあるようだが、聞くところによると生姜の時期は労働者はそこへ泊まったりしているようだ。

(富田_地域振興局長)

高知、鳥取、島根などは日本の中でも特に高齢化が進んでいる県で、人材が不足するそういった過疎地域の支援を目的に制定された議員立法「特定地域づくり事業推進法」がある。総務省は、過疎地域において農林水産業、商工業等の地域産業の担い手を確保するための特定地域づくり事業を行う事業協同組合に対して財政的、制度的な支援を行っている。この特定地域づくり事業とは、季節ごとの労働需要等に応じて複数の事業者の事業に従事するマルチワーカーに係る労働者派遣事業等を言う。つまり、通年は要らないけど多忙な時だけ人手が欲しいという場合。でも、理想と現実はそううまくはいかない。うまくいかない原因のひとつは、収穫時期が重なっていること。国が思い描く姿とのギャップがここにある。農業は農業で、移住と絡めての仕組みが別立てではないかと、町執行部と話している。

(松下敦委員)

自分たちも、外国人材（外国人技能実習生）の受け入れについて県に要望を伝えている。

(松下洋平委員)

ちなみに、人材募集のことはどうやって外にPRしている？

(松下敦委員)

基本的には人づて。知り合いに声をかけて…とか。

(松下洋平委員)

JAなどから人材マッチングの話は無いかな？

(松下敦委員)

高知の大きなエリアから始まるので、十和にはまだ浸透していない。

(伊賀守委員)

実態としては、どこの農家も「また来年も来て欲しい」と人材を抱え込んでいる。全国の農家を支援するために働いている人たちもいる。農家から農家を渡り歩いているような。一方で、高齢者はそういった情報を例えばスマートフォンやパソコンなどから得ることが難しい人が多い。ICT分野は難しい。だから、お得情報だってスマホに送られてきたって高齢者には見られないから、取り残

される。百姓、林業…個人が簡単にモノの売り買いが楽しめるような…自分で値段をつけて売ることができたらね。

(田頭誠志会長)

大物流に乗せるだけじゃなくて誰でも簡単に、安心安全な取引が行えるようにということ。良いものを作る一方で、もっと売り方も広げられたら。

(伊賀守委員)

高齢者にはICT分野が分かりにくい。だけど、ここに行ったらサポートしてもらえるぞ、というのが一番優しいのではないか。

(松下洋平委員)

まさに自分がいま関わっていること。ICT・IOTの部署へ投げかけたい。農家が希望する時期とか人数とかぜひ教えて欲しい。マッチングは早速年明けの1月から始まる。

(富田_地域振興局長)

分野は複数ある。米農家だけでなく、お茶もそう、柚子もそう…

(松下敦委員)

10月ぐらいから12月ぐらいまで割と農業の現場作業はある。

(伊賀守委員)

他から農家を支援してくれる人が来てくれるなら、面積も広げてみようかという選択肢が増えるのでは。それと、四万十川の鮎もここ(十和)で消費できるように。他所へ持って行って、他所の値で売る。そういうことも考えた方が良い。

(松下洋平委員)

一次産業の振興を担う人材確保や仕組みづくりというテーマはどうか。

(田頭誠志会長)

いま松下委員からテーマ提案があったが、他に意見はないか。質問でも何でも構わない。

(中平良子委員)

9ページ資料中、地域支援員の導入による地域課題解決に向けた取り組みと書いてある。この地域支援員というのは、町内?町外?

(富田_地域振興局長)

これは地域おこし協力隊と類似した取り組み。地域支援員は、国から財源措置を受けて地域の中で雇用を生むもの。大正と十和には、まさにこの我々のまちづくり推進協議会が設置されているが、実はまだ窪川には無い。ひと口に窪川と言っても広いので、松葉川とか東又とか7つぐらいのエリアがあってその地域ごとにまちづくり推進協を立ち上げるのか、それとも窪川地域として一本化するのかという議論が、まだ結論に至っていない。もう一つは、十和地域に地域支援員を導入する案が出ていたが、こちらも結論が出なかった。ただ、集落活動センターとセットで地域支援員を暫定的に導入した地区もある。

(田頭誠志会長)

はい。他は?どんなことでも構わない。

(中平光高委員)

資料中の表に、十和地域の人口・高齢化率推計が載っている。ここでいう高齢化率というのは、何歳以上を高齢者としてカウントしている?

(富田_地域振興局長)

65歳以上で計算している。

(中平光高委員)

承知した。ちなみに現在、町内全体での子どもの出生数は年間何人程度か。

(細川_町民生活課課長)

目標は年間100人だが、ここ数年は年間60~80人で推移している。

(伊賀守委員)

四万十高校でも調べていたが、少子化が進んで壊滅的になってきている。町内で生まれた子どもが全員四万十高校に入学してきたと仮定しても維持できない。

(田頭誠志会長)

十和地域の人口・高齢化率推計の表を見ると、平成40年予想だと小・中学生数が72人。1学年10人を切っている。中学生は24人ぐらいってこと。小学校だと1学年4名×6学年。それが2校あるという予想。非常に少ない。

(伊賀守委員)

今後増えることはないと思う。

(鈴木幸代委員)

自分は移住者として10年前に十和に来た。どうしてここに来たのか話をしたい。この地を選んだのは夫で、有機農家の出身。私たち夫婦ともに関東の平野部に生まれ育った。親の世代は日本の高度成長期で、その時代に無くしてしまったもの、失ってしまったものが十和には全部あった。最初にここに来た時に夫は地形を見て、だから大企業は来れないのだと言った。私たちが無くしてしまったものは全部ここにある。野菜なんかも在来種が残っている。そういったものの貴重さをぜひ再認識してほしい。おかみさん市とかが在来種を保存する活動をしているのかなと思っている。移住者のなかには、子どもの健康を願って移住する人もいるのでと思い、発言させてもらった。

(田頭誠志会長)

生姜の有機栽培も徐々に増えている。ただ四万十町は生姜の大栽培地で、慣行栽培（農薬使用の従来型の栽培のこと）も行われている。それで生計を立てている人も多数いる。生姜を使った加工品を作るなどの二次産業も支えられているという側面があるので、どちらが良いとかではなくて両方とも大切な考え方だと思う。

さて、時間が来た。今日は皆さんからの色々なご意見を聞けたので良かったと思う。各自今日の資料にもう一度目を通してもらって、次はこういう議題を話そうというのを考えて来て欲しい。

(富田_地域振興局長)

最後にちょっと補足だけさせてほしい。8ページの施策体系だが、政策目標は10年変えない。町長の任期が4年であり、例えば町長が変わるたびに政策目標まで変わっていたら大変なのでこれは議会の議決を経て決まっているもの。施策目標の下にぶら下がる事業が実はあって、今日の配布資料にはそこが載っていないが、これは3年ごとに見直ししている。興味がある分野や、欲しい資料は局へお知らせくださったら、いつでもご用意させていただく。

(田頭誠志会長)

はい。それでは本日はこれで閉会とする。次回もよろしく。

— 終 了 —